

# 創建

そうこん

2002・7・10 VOL.37 NO.1 (通巻109号)

巻頭言／出村克宣・1  
 ネットワーク OB&OG・2～3  
 平成15年度卒業研究テーマ・4  
 平成14年度卒業研究受理者・6  
 研究発表・8  
 教室ニュース・9  
 新任の先生・10～11  
 教職員名簿・12

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

工学部では、今年の4月に次世代工学技術研究センター（呼称：NEWCAT）が、又、東北高校には新しい体育館が建設されました。NEWCATは打ち放しコンクリートで仕上げられています。体育館の屋根は、集成材を用いた木質トラス構造です。この他に、校内を見渡すと、いろいろな建築物があり、幸か不幸か、劣化して、醜くなった建物もあります。そのような建物から、例えば、様々な構造様式、空間の広さ、建具の収まりや外壁の詳細と汚れの関係、材料の耐久性などを学ぶことができます。このように、学内を見渡しても、建築を学ぶ上での教材が多く見受けられます。又、30周年記念館北側で、学術フロンティア構想による環境保全・共生共同研究センターの建設が始まりました。基礎工事から竣工までの様子を見ることができますので、是非、現場を覗いて見てください。現在、工事の様子をweb上で見られるように準備を進めています。

どうしてこんなことを書くのかといいますと、学生諸君には、机上の学問ばかりではなく、建築を肌で感じてほしいと思うからです。学内ばかりでなく、街に出てみましょう、旅行をしましょう、音楽を聞きましょう、美術館を覗いて見ましょう、そして、建築を学ぶものとしての感性を養いませんか？建築設計演習でいろいろな建物の設計が課題となっていますが、その図面を書くときに皆さんはどのようなことをイメージしているのでしょうか。図面を書き上げるまでの過程で、建物がどのよう

な工程を経て建てられるのかを学んでいるのですが、皆さんが設計した建築物が実際に建てられたと仮定して、その実物の施工の様子や竣工した時の様子をイメージできるでしょうか。建築学科では、計画、環境、意匠、構造、材料、施工などについて多くのことを学んでいます。それらを連続して結合することによる総合的な学問が建築であるとよく言われます。そのような知識を有機的に結合することによって設計行為が行われます。そのときに、建築物が立てられていく過程をイメージできるような建築教育ができればと考え

## 建築がイメージ できますか

出村 克宣

ています。現在、平成13年度のカリキュラム改訂を踏まえて、学生諸君にとって有効な教育システムとは何か、どのような教材が有効かなど、建築学科の授業体系をどのようにすべきか思考錯誤の状態で議論を進めています。その対応策の一つとしての教材開発は、教員に課せられた使命と考えますが、建築を肌で感じることは、学生諸君が自主的にそのような行動をとることに期待しなければなりません。上述したように、学内を見渡しただけでも、多くの教材がありますし、学外にはもっと多くの教材が存在しています。街の中や学内を散歩しながら、建築を

イメージする訓練をして下さい。最後に、建築学科ホームページの一部を紹介します。建築って、こんな学問だと考えています。

建築のベースになるキーワードを並べてみました。

ひと・・・→家族→社会

自然環境を考慮しながら、美しく、安全・快適で、心豊かな、そして活気あふれる居住環境を提供するのが建築の役目だと考えています。

建築学は、住む、余暇、教育、労働を対象にした

建築物(器)→その集合体→まちや都市の形成・環境整備等を考える学問です。

そこで、建築学科では次のようなことを学びます。

◇建築に「いのち」を吹き込むために

→快適な空間を光・音・熱環境から捉える「建築環境・設備」

→要求環境や構造を提供する「建築材料・構法」

→建築物を安全に支えるための「建築構造」

→そのつくり方としての「建築施工」

◇先人の知恵を理解し、文化を考える「建築歴史・意匠」

◇建物・まち・都市を造るための「建築計画・設計」「都市計画・設計」

◇形や空間にしていくなための「設計製図・構造設計」

◇「材料実験・計画実験・構造実験・建築測量」

◇「建築法規・建築倫理・企画」など (主任教授)



ネットワーク OB&OG ⑩

## 「高校教師30年」

—青春群像を追い求めて—

永田 進

### プロフィール

1951年 静岡県に生まれる

1973年 日本大学工学部建築学科卒業

光星学院野辺地工業高校採用

2000年 常葉学園大学大学院修士課程修了

現在 静岡県立島田工業高校教諭・生徒指導主事

恩師佐藤平教授のご推薦をいただき本州最北端の小さな田舎町に新設された光星学院野辺地工業高校に建築科担当の教師として赴任したのが1973（昭和48）年の3月末のまだ周囲の山々には真っ白な雪が残るはだ寒い日であった。（写真1）

以来30年、そのほとんどを工業高校教育に携わってきた。その間工学部の諸先生方には在学中以上にご指導いただきてきた。さらにそのうえ、私の教えた生徒も多数工学部に進学したので、まさに2代にわたりお世話になってきた。

### 新しい学校の新米教師

下北半島の付け根にある青森県野辺地町は下北・八甲田の連山を指呼に仰ぎ、眼下にはエメラルド色のむつ湾を望む美しい自然とみちのくのあたたかな人情につつまれた町である。この理想の地で281名の第1期生とともに人間性豊かな高校教育を実現しようと燃えに燃えていた12名の教師集団の仲間に入れていただいた。しかし、1973（昭和48）年と言えばオイルショックの年であり、建築資材も不足がち、入学式・開校式までにはようやく普通教室棟の一棟のみが完成、体育館もなければ実習室も未完成、グラウンドも石ころだらけ、まさに学校というイメージにはほど遠いありさまであった。そのような中で教師も生徒も『自分達が学校をつくるんだ。』という一心で不満も言わずがんばった。何もかもが一からであるので教職員は帰宅が真夜中になることもしばしばであった。生徒諸君も施設設備の不備にもよく辛抱し、学業にスポーツに青春の力をふりしぼった。その生徒達も今や40代半ば、社会の中堅としてあらゆる分野において活躍していることが時折くれるたよりでわかる。まさに『教師冥利につきる』とはこういうことであろう。

初年度の建築科担当は私一人であったのでいろんな面で苦労したが、佐藤平研究室の皆さんの適切なるアドバイス、そして若輩ながら自分が建築科をつくるんだという何か使命感のようなものがこの苦難を乗り越えさせたと思う。



写真1 冬の野辺地工業高校（当時）

そして、六ヶ所村泊中学校から入学した第2期生の板垣幸男君が私の教え子第1号として工学部建築学科に進学した。研究室も私と同じ佐藤平研究室であり、つまり私の後輩第1号になるわけである。彼は東北人特有の粘り強さと努力で立派な成績で卒業し、現在は一級建築士として地元下北で北国の厳しい自然条件に調和した建物設計に力を注ぎがっている。

このように、教育に携わる者として新設校に関わったということは大変幸せな事であった。そのような巡り合わせとともに、優秀な生徒達と若々しく立志の気風に溢れた諸先生方と学校づくりに参画できたことは望外の幸せであったとともにその後の教職人生の大きな土台になった。

あれから30年。今、静に北国の生活を回想すると、懐かしい人々の面影と凍り付く夜空にくっきり浮ぶ野辺地工業高校の学び舎が浮かぶ。

野辺地工業高校……それは私にとって懐かしい青春の殿堂である。

### 工業高校史に嶄然と輝く日大工学部

工学部は50余年の歴史の中で多くの優秀な技術者を送りだしてきた実績を持っている。しかし、それに勝とも劣らないものがある。それは、全国の高等学校を中心に教育機関、特に工業高校の工業教員に多くの優秀な人材を送りだした。つまり、我が国の産業界の発展の中核となった工業高校生の育成に貢献したということはイコール産業界の発展に大きな役目を果たしてきたということであろう。このように工業高校教育に嶄然と輝く足跡を刻んできたのが我が母校・日大工学部なのである。

特に建築教育の分野においては昭和20年代から30年代にかけての基盤づくりの時代、そして30年代後半から40年代にかけての工業高校増設期時代の充実・発展期に各地区のリーダーとしてその振興・発展にご尽力された佐藤宏先生（元苫小牧工）・高橋三郎先生（元山形工）・斎藤久志朗先生（元郡山北工）・鷲山敬義先生（元会津工）・宮浦弘義先生（元高岡工）そしてその半生を本土復帰前



写真2 教え子たちと（筆者・後列右から3人目）

から沖縄県の工業高校教育に尽くされた親泊元高先生（元沖縄工）はすべて我々の先輩であります。さらに工業高校建築科の全国組織である東日本建築教育研究会で長年その責任者として運営にあたってこられた山崎敏弘先生（元神奈川工）そして同会秋田大会の折大会事務局長として運営にあたられ、さらに秋田県の建築教育の指導者として活躍された高橋義則先生（元大曲工）・九州地区の工業高校教育の中心としてご活躍された椿正大先生（元福岡県立浮羽工高校長）・伝統校の校長として学校運営のみならず後輩の育成に多大な実績を残された花田章先生（元岩手県立黒沢尻工高校長）も同じく工学部のご出身であります。そして、21世紀を迎え新しい工業高校教育への転換期の今、それぞれの地区・拠点校での指導的立場でご活躍されている高崎格先生（札幌工）・関根敬次先生（福島県立塙工高校長）・久保田幸正先生（新潟県教育委員会）・麻生廉彦先生（大分県立大分工高校長）塚本達夫先生（宮城県工）・馬場彦吉先生（郡山北工）・佐久間亨先生（福島工）等多数の先輩の方々がおられます。このように全国規模でこれだけ多くの工業高校建築教育界に優秀な人材を輩出している大学は全国広しといえども我が日大工学部だけあります。以上、建築学科関係のみであります。土木・機械・電気・工化の各学科からも工業高校教育界に多くの人材を送り出し母校の名を高らしめています。これはあまり知られていない工学部の誇り高さ伝統であると同時に財産でありましょう。

#### 新しい時代の工業高校

1948（昭和23）年新しい高等学校制度とともに発足した工業高校は50余年の歴史を刻み今日に至った。その間、中堅技術者の養成を中心に我が国の産業・経済の発展・高度化には大きな貢献を果たしてきた。

特に建築系学科においては、1級・2級・木造建築士等、建築技術者養成の教育機関として重要な役割を果たしてきた。

ところで、1970（昭和45）年以降、国民の高学歴志向により工業高校の地盤沈下が言われてきたが、地方の建築業界においては現在も工業高校建築系学科の卒業生に期待する面は大きい。

特に、進学者の増加は従来の『中堅技術者の養成』という工業高校の役割を『工業技術の基礎・基本を学び将来のスペシャリスト養成を目指す最初の3カ年の職業教育の場』へと変化させた。これは必然的に、工業高校と大学との連携を意味するものである。

日本工業大学の木村寛治教授は『高校生の時期が感性が育つ最後のチャンスである』と述べられている。このことから、授業の半分以上を実験・実習などの実技の時間で占める工業高校と大学工学部の一貫教育が科学技術創造立国を目指す大きな柱となろう。

そして、NHK・TVで放映されている『プロジェクト・X』を視た人はおわかりであろうが、戦後の産業の驚異的発展の原動力となったのは工業高校卒業生といっても過言ではなからう。つまり、工業高校なくして今日我が国の発展はなかったであろう。

だからこそ、我が工学部と工業高校が連携し7カ年の工業教育の道を確立したならば21世紀の新しい時代に対応する『ものづくり教育』も大きな成果が得られると思う。

#### 若き情熱を工業高校へ……アカシア教育研究会発足

前述のように、工業高校は21世紀の基盤づくりを担う

重要な役割を持っている。しかしながら、その工業高校の危機がいまさらけられている。それは、昭和40年代前半にかけて大量に採用され、高度成長経済下の社会において技術者・技能者養成に大きな役割を果たされてきた工業教員が退職の年齢を迎えている。平成15年3月の571名をピークにこの4～5年で工業教員の半数近くが交替という状況である。工学部卒業の先輩諸氏もちろん同じ様な状況である。

工学部の使命はともすれば優秀な技術者を育成し我が国の発展に寄与することのみが強調されがちであるがそれだけではない。その優秀な技術者の育成の一端を担う工業高校の教員を養成することも工学部の大切な使命であると思う。

だからこそ大量交替期という危機を迎えて工業高校のさらなる発展と工業高校の基盤づくり・発展の中心となった我が日大工学部の先輩諸氏の輝かしい伝統と実績を守るためにも情熱溢れる後輩諸君が多数工業高校の門を叩くことを多くの校友教員が期待しております。工業高校の教員となってもものづくりに熱中でき人間性豊かな生徒を一人でも多く母校に送り込みお互い手を携えて工業立国日本の発展に寄与するなんて何とやりがいいが、いざばらしいことではないでしょうか。そのために本年4月に校友会の職域支部としてアカシア教育研究会（会長：麻生廉彦大分工高校長）が発足いたしました。これはアカシアの森・工学部で学び教職にある校友の親睦・交流はもちろんであるが日本一の工業教員の養成の伝統を守り発展させるとともに教職希望の学生への援助、優秀な高校生を母校に進学させたいという校友教職員の熱い熱い声から生まれたものであります。このような会は他大学にもみられますがアカシア教育研究会が他大学と違うことはこの会が大学主導で生まれたのではなく、前述のように校友教職員の後輩・母校を思う気持ちから生まれたことでもあります。

どうか、教職の道に進みたいと考えている人は全国ほとんどの都道府県には校友教員がおります。ぜひ、遠慮しないで声を掛けてください。必ず皆さんのお力になれると思います。

#### 北国のなれない土地ではじまった私の高校教師生活

その後、順調な時もあったが大きな壁にぶつかり途方に暮れた時もあった。そんな時、常に励ましご援助いただいたのは母校の恩師であり先輩・後輩の方々からであった。そして2000（平成12）年3月『工業高校の歩みと新しい時代に対応した工業高校教育』という題目で50余年の工業高校の歩みを振り返るとともに新しい時代の工業高校教育はどうあるべきかを諸外国の中等教育段階における職業教育と比較考察し修士論文として纏め、常葉学園大学院（国際教育専攻）を修了した。この二足草鞋の2年間は勤務との両立で悩んだが多くの方々の励ましと資料収集等で全国各地に勤務されている校友の先生方からご援助・ご協力をいただいたことは感謝の気持ちで一杯であり忘れることはできない。つたない30年であったが、その間、高校教育（ホームルーム経営）に関して3冊の著書を出版し、日本高校教育学会・日本建築学会等で生徒指導・高校教育・工業教育・建築教育についての論文の発表の機会を得ることもできた。考えてみれば『家族大学工学部』の良き伝統を一番享受したのは私自身であったかもしれない。

## 平成15年度 卒業研究テーマ一覧

### ■材料工学

岩崎 博 教授〔論文〕

1. 伝統的建築材料の評価及び建築生産に関する調査研究  
近年、土壁はヒトの身心への安らぎの付与、健康的な居住環境構成材料としての優れた諸特性及び廃棄後のリサイクルが容易な材料として、再評価され始めている。このため、下記の調査研究を行っている。
  - 1) 壁土の産出地別特性及び分類（壁土固有の構成因子である粒度組成、元素及び鉱物分析結果と土壁の基礎的性質である居住性、色彩、施工性からの総合化分類）
  - 2) 壁土の諸性質の評価（有害空気汚染物質等各種外因による吸着・放散特性試験を行い、脱臭、調湿、調温、空気浄化作用、色調、変退色、ひびわれ等の検討）
  - 3) 部材及び材料の改良開発（諸性質の向上、調合法の合理化等）
  - 4) 設計・施工技術の開発（壁塗り動作・こて圧解析等からの自動化施工、設計仕様の標準化）
2. 建築及び建築材料の需給構造に関する研究
  - 1) 新聞広告にみる戸建及び集合住宅の性能及び材料の採用動向調査
  - 2) 建築設計者を対象とした建築材料の採用意向調査
  - 3) 近未来建築物の諸性能に関する調査
3. 建築及び都市のマテリアルデザインに関する調査研究
  - 1) 文学作家及び画家と造園材料の嗜好傾向事例調査
  - 2) 街並み構成材料の地域特性に関する調査
4. 建築物のライフサイクルマネジメントに関する調査研究

大濱 嘉彦 教授〔論文〕

1. 有機物と無機物の複合による超高強度コンクリートの開発
2. 自己修復機能と自己防錆機能を持つインテリジェントコンクリートの開発
3. ビニロン及び炭素繊維補強モルタル及びコンクリートの性状及び用途開発
4. ポリマーセメントモルタル及びコンクリート中のポリマーとセメントの相互作用
5. 建築材料としての新素材の利用の可能性
6. ポリマーセッコウ複合体の開発（人工木材など）
7. 廃発泡ポリスチレンを用いたポリマーコンクリート及びモルタルの開発
8. セメント混和用ポリマーディスパーションの迅速性能判定法
9. ポリマーモルタル及びコンクリートの各種試験方法の開発

出村 克宣 教授〔論文〕

1. 建築材料用教材のビジュアル化に関する調査研究
2. セメント系傾斜機能複合材料の開発
3. RC造建築物用補修材料・工法選択システムの開発
4. ポーラスコンクリートに関する調査研究
5. 環境浄化機能を有する建築材料の開発

渡澤 正典 専任講師〔論文〕

1. コンクリート構造体の耐久性向上
2. コンクリート構造体の強度推定

3. 産業廃棄物のコンクリート製品への利用
4. オートクレープ養生コンクリートの品質改善
5. スラッジの有効利用に関する研究

### ■構造

倉田 光春 教授〔論文〕

1. 構造フォルムに関する研究  
自然界の進化アルゴリズムによって出現する**かたち**と**つよさの神秘さ**を自然観察あるいは、経験則に基づく感覚的・実験的構造学で考察し、コンピュータシミュレーションによる検証を行う。
2. 構造解析法に関する研究  
各種構造物について、構造形態の最適化手法の開発や、弾塑性解析を行う。
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究  
振動応答解析法の開発あるいは、地震波入力による地盤および建物モデルの**振動実験**と地震応答解析を行う。
4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究  
単層ラチスシェルの座屈実験と解析のための**鋼管材の局部座屈**に関する実験および解析を行う。
5. 構造材料に関する研究  
コンクリートおよび鋼材に関する実験および解析を行う。
6. 建築における情報技術の利用に関する研究
7. その他  
免震・制震構造に関する研究、海洋構造物の解析に関する研究など各自あるいは、グループの希望テーマを面接の上決定し、それに沿って研究を行う。

黒田 浩司 教授〔論文〕

1. 柱・はり接合部の挙動、耐力に関する研究
  - 1) 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※
  - 2) 鉄鋼造接合部の実験・解析
2. 耐震補強改修に関する研究
  - 1) 炭素繊維シートを用いたはりの補強実験・解析※
  - 2) その他改修法について実験・解析
3. RC造及びS造用耐震診断のプログラム化
4. その他、構造設計に関する研究  
※1. 1)、2. 1) はパリーク専任講師との共同研究

浅里 和茂 助教授〔論文〕

1. 鋼構造柱・はり接合部の挙動に関する実験的研究
2. 鋼構造部材・部位の局部座屈に関する実験的研究
3. 鋼構造物の弾塑性解析
4. 情報技術を利用したシステムおよびコンテンツの開発  
1, 2は黒田浩司教授と共同研究

千葉 正裕 助教授〔論文〕

1. 建物の近似振動解析法に関する研究
2. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
3. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
4. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究（振動計測車の活用：倉田教授と共同）
5. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
6. 各種構造解析プログラムの開発

パリーク サンジェイ 専任講師〔論文〕

1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※
2. 炭素繊維シートを用いたはりの補強実験・解析※
3. 複合構造部材の研究開発

## 4. 複合材料の力学的性状に関する研究

※1.、2. は黒田教授との共同研究

## ■人間環境・インテリア・設計

若井正一 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 人間環境系からみたヒトの行動特性に関する研究
2. 人間環境系からみた環境心理学的諸問題の研究
3. インテリアスペースにおけるヒトとモノの関係
4. 色彩情報をもとにした視覚的諸問題に関する研究
5. その他（新規課題は、相談に応じます）

〔設計〕

1. 意外性のある空間の設計
2. 新しいインテリアスペースの提案
3. その他（学内外のコンペ課題も可とする）

私たちの生活場面の中には、まだまだ解決すべき多様な問題が隠されています。論文、設計ともに問題意識を持って興味を抱くテーマを自ら定めることとなります。

特に、論文は、各テーマともに人間環境系の視点から、住まいやオフィスなどの具体的な場面を研究対象にして調査または実験の両面から問題点を探求するものです。

また、設計は、既成の概念にとらわれない自由な発想のもとに意外性のある空間などを独自に提案するもので、学内外のコンペなどに応募することを勧めます。

なお、テーマの内容によっては共同研究を認めます。環境心理学やインテリアなどに興味を持つ協調性のある卒研究生を歓迎します。

## ■環境工学・建築設備

濱田幸雄 助教授〔論文〕

1. 音響透過損失測定におけるJIS残響室とISO試験室の違いの影響に関する研究
2. 音響透過損失測定における支持条件の影響に関する研究
3. 多層膜構造の吸音特性に関する研究
4. 福島県のサウンドスケープに関する研究
5. 構造体からの音響放射に関する研究

八町雅康 専任講師〔論文〕

1. 燃焼器具と室内空気汚染に関する研究
2. ランドサットデータ利用に関する研究
3. アメダスデータのデータベース化に関する研究
4. ホームページ（設備用教材）の作成の試み  
コンピュータ又はプログラム開発に関する希望があれば、相談の上、受入れます。

## ■建築史

狩野勝重 教授〔論文〕

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本の都市のアイデンティティーについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他、町づくりなど

## ■建築計画・設計

佐藤平 教授〔論文・設計〕

清水公夫 非常勤講師〔設計〕

〔論文〕

- 1) 特別養護老人ホーム・経費老人ホーム・デイサービ

スセンター等高齢者福祉施設のあり方に関する研究

- 2) リフォームヘルパー制度と住宅改造の実態調査
- 3) やさしいまちづくりの現状と未来像に関する研究
- 4) 障害者の職場環境の実態に関する研究
- 5) 高齢者の余暇活動と地域施設のあり方に関する研究
- 6) 学校の空き教室の使われ方に関する研究
- 7) 老人保健施設の空間構成に関する研究
- 8) 小学校のオープンスペースとその使われ方に関する研究
- 9) 教科教室型中学校の使われ方に関する研究
- 10) 盲・ろう・養護学校の使われ方に関する研究
- 11) その他研究テーマ自由・相談に応じます。

〔設計〕

卒業設計を選択する場合は、夏休み終了時までは各自テーマに沿ったデータを收拾する。設計はそのデータに基づいて設計を行う。

但しコンペ等に参加する場合はこの限りでない。

松井壽則 助教授〔論文・設計〕

1. 高齢化社会に対応した住生活環境整備に関する研究
  - 1) 高齢化対応住宅に関する調査研究
  - 2) 高齢社会に対応した住宅施策展開に関する調査研究
  - 3) 身体障害者、高齢者などに配慮した住宅計画に関する調査研究
2. 高齢者に対する福祉サービス提供施設に関する研究
  - 1) 通所型住宅サービス提供施設に関する調査研究
  - 2) 特別養護老人ホームの計画に関する研究
  - 3) グループホーム（ユニットケアを含む）の計画に関する研究
3. 住宅・住宅地に関する調査研究
  - 1) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究
  - 2) 公営集合住宅の時系列的変遷に関する調査研究
  - 3) 公営集合住宅の外部空間を核とした交流空間に関する調査研究
4. 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
5. 保育園・幼稚園の計画に関する研究
6. 特殊学級、養護学校に関する調査研究
7. 上記テーマに関する設計

注意事項：希望者は、2年次、3年次設計課題をそれぞれ1作品、計2作品を持参し、設計の内容についての意見交換をおこない、選考の参考とします。

また、先方の都合により調査を行なうことになるので、講義に追われずに済むよう、できるだけ必要な単位は3年次生で修得しておいて下さい。

五十嵐徹 非常勤講師〔設計〕

フィールドワークの結果を小論文にまとめ、その内容を設計提案する。

注意：これまでの設計課題を数点持参してください。

## ■都市計画・設計

有賀保二 助教授〔論文・設計〕

1. 地方都市における地区レベルの町づくりの研究
2. 商店街構成に関する調査研究
3. 都市景観に関する研究
4. 地区計画設計

論文・設計とも基礎調査として現況調査、文献調査を行い、現況分析より問題点を抽出、その要因を探索し、その結論を論文又は図面として表現する。

テーマについては、ミーティングの進行状況の中より

各自の具体的な研究テーマを決定する。

調査についてはグループで行い、論文、設計とも個人、又はグループでもよいが各自の分担を決め、まとめを行う。

土方吉雄 助教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究

- 1) 土地利用の更新過程
- 2) 用途地域制
- 3) 都市マスタープラン
- 4) 地方都市中心市街地の再活性化

2. 住宅・居住環境整備に関する研究

- 1) 住宅需給
- 2) 都心居住
- 3) 子供の遊び環境
- 4) 近代化遺産とまちづくり
- 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画
- 6) 市街地整備事業の評価手法
3. 都市設計、まちづくり

\*設計では、CADに興味のある人を特に希望します。

三浦金作 助教授〔論文・設計〕

1. 探索歩行時の注視行動に関する研究（日本・外国）

はじめての都市空間で、来街者は何を手掛かりに空間移動をするのか探求する。

- 1) 都市空間把握について
- 2) 歩行行動について
- 3) 注視行動と脳波
- 4) 認知地図（スケッチ・マップ法）

2. 都市景観の研究（日本・外国）

これからの都市景観はどうあるべきなのか、景観からの都市づくりを模索する。

- 1) 都市景観のイメージ と評価

- 2) 景観条例とまちづくり

- 3) 夜間景観について

3. オープン・スペースの研究（日本・外国）

都市のアメニティ施設としてのオープン・スペースのあり方を模索する。

- 1) 東京都A区のプチ・テラス（スモール・アーバンスペース）
- 2) 大都市の広場公園
- 3) 子供の遊び場
- 4) 都市緑地・公園整備
- 5) 公開空地
- 6) 日本のオープン・スペース史
- 7) アメリカの都市広場

4. 西欧都市の研究

西欧都市の空間構成原理を探求する。現地調査も実施する。

- 1) 水都・ヴェネツィアの都市空間特性（イタリア）
- 2) ハンザ都市・リュベックの都市空間特性（ドイツ）
- 3) イタリア広場空間における人間の滞留行動について
- 4) 西欧都市史・建築史

5. その他の研究（日本・外国）

上記研究のほかに、興味のある研究テーマがあれば相談して下さい。

- 1) 商業施設の立地傾向について
- 2) アーバン・ビヘイバー（都市空間での人間行動特性）について
- 3) 歩行者空間（緑道、ショッピングモール、アーケード）の整備

6. 都市デザイン・まちづくり・建築設計

設計・デザイン希望者は、2・3年次の課題図面を持参して作品を説明して下さい。

## 平成14年度 建築学科卒業研究 受理者一覧

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
112001	栗飯原由博	土方助教授	112020	石崎 公太	倉田教授	112038	漆山 健一	濱田助教授
112002	青木 隆志	千葉助教授	112021	石田 惣一	八町講師	112039	江藤 嘉彦	千葉助教授
112003	青野 幸治	濱田助教授	112022	石田 雅一	倉田教授	112040	遠藤 和宏	有賀助教授
112004	青柳 広樹	大濱教授	112023	石橋 澄憲	狩野教授	112041	大瓦 和幸	狩野教授
112005	赤羽司保美	黒田教授	112024	犹守 尚	濱田助教授	112042	大熊 俊光	若井教授
112006	秋元 良平	八町講師	112025	市川慎太郎	三浦助教授	112043	大坂 智史	土方助教授
112007	秋山 和仁	黒田教授	112026	伊藤 和芳	若井教授	112044	太田 詩帆	岩崎教授
112008	芥川 司	千葉助教授	112027	伊藤 隆	若井教授	112045	大塚 裕也	濱田助教授
112009	浅野 直	有賀助教授	112028	伊藤 大輔	若井教授	112046	大友由香子	松井助教授
112010	浅野 美紀	松井助教授	112029	伊藤 宏行	黒田教授	112047	大野 敦史	倉田教授
112011	遊馬 知宏	清水講師	112030	伊藤 友紀	岩崎教授	112048	大森 大	倉田教授
112012	我妻麻理子	佐藤教授	112031	井上 景介	岩崎教授	112049	大和田英明	倉田教授
112013	安孫子由佳	若井教授	112032	今井 哲也	大濱教授	112050	岡本 亮	浅里助教授
112014	阿部 秀一	有賀助教授	112033	今村 匡利	浅里助教授	112051	岡安 清晴	濱田助教授
112016	荒川 直	有賀助教授	112034	宇梶 梨香	出村教授	112052	荻野 一好	出村教授
112017	池田亜紀子	土方助教授	112035	宇口 渡	有賀助教授	112053	片嶋 範典	若井教授
112018	池田 友章	土方助教授	112036	梅津喜代子	倉田教授	112054	片山 大輔	土方助教授
112019	池田 洋介	八町講師	112037	梅原愛里沙	浅里助教授	112057	金敷 佑介	濱田助教授

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
112058	金丸直才	松井助教授	112118	竹内康裕	浅里助教授	112179	松本祐輔	有賀助教授
112059	鎌倉公宏	土方助教授	112119	竹澤八千代	有賀助教授	112180	丸山昌弘	浅里助教授
112060	亀倉美緒	狩野教授	112120	武田真	三浦助教授	112181	三木智史	出村教授
112061	川口晋平	佐藤教授	112121	竹股哉子	若井教授	112182	宮川浩一	出村教授
112063	川辺雅司	土方助教授	112122	田代絵美	狩野教授	112184	宮澤綾	土方助教授
112064	菅野竜也	岩崎教授	112123	只木昭一	佐藤教授	112185	宮田和則	岩崎教授
112065	菅野哲司	松井助教授	112124	巽孝太郎	若井教授	112186	宮田勝弘	橋本講師
112067	菊池秀喜	岩崎教授	112125	田中陽水	狩野教授	112187	宮野陽介	出村教授
112068	北村大作	清水講師	112127	田村悦子	大濱教授	112188	宗形亮	倉田教授
112069	木田宣吉	三浦助教授	112128	千田拓郎	佐藤教授	112189	村上剛	出村教授
112070	清高朋子	松井助教授	112130	土屋彩子	狩野教授	112190	柳沼重成	狩野教授
112071	國安良彰	八町講師	112131	時崎裕千	若井教授	112191	安田真穂	若井教授
112072	黒川俊明	清水講師	112132	渡仲徹也	岩崎教授	112192	矢部秀一	浅里助教授
112073	小池龍太	橋本講師	112133	殿岡広勝	千葉助教授	112194	山口悟	濱田助教授
112074	鯉沼正一	濱田助教授	112134	友常淳	浅里助教授	112195	山崎守	倉田教授
112075	河野庄一	倉田教授	112136	中井亮直	土方助教授	112196	山田貴正	佐藤教授
112076	木暮和子	岩崎教授	112137	中川貴文	狩野教授	112197	山田真里	松井助教授
112077	児島晴隆	渡澤講師	112138	中川千絵子	有賀助教授	112199	山村有美	千葉助教授
112078	小林和哉	千葉助教授	112139	中崎正博	佐藤教授	112200	横田悟	土方助教授
112079	小林孝裕	岩崎教授	112140	中沢幾代	岩崎教授	112201	横山賢一	千葉助教授
112080	小林孝至	倉田教授	112142	中野間隼人	有賀助教授	112202	吉澤佑祥	浅里助教授
112082	小柳実	土方助教授	112143	中村是清	有賀助教授	112204	吉田理恵	土方助教授
112083	近藤保	濱田助教授	112144	永久保良	橋本講師	112205	吉野伸一	清水講師
112084	近藤寛子	松井助教授	112145	永山勝昭	狩野教授	112206	依田路子	狩野教授
112085	後藤祐哉	狩野教授	112146	鳴海アラン悠	浅里助教授	112208	龍崎崇	有賀助教授
112086	斉田達也	倉田教授	112147	新鞍俊介	三浦助教授	112209	若月裕也	八町講師
112089	佐々木隆浩	千葉助教授	112148	西尾友希	三浦助教授	112210	若菜弘一	濱田助教授
112090	佐澤克郎	土方助教授	112149	西山博之	橋本講師	112211	若林工	岩崎教授
112091	佐藤潤	渡澤講師	112150	二宮彰	土方助教授	112213	渡辺吏	渡澤講師
112092	佐藤裕子	佐藤教授	112152	野口悦子	佐藤教授	112214	渡邊一二司	岩崎教授
112093	佐藤洋二	有賀助教授	112155	野原悠平	濱田助教授	112215	渡邊さくら	出村教授
112094	佐藤喜教	狩野教授	112156	萩原正季	浅里助教授	112216	渡邊拓也	浅里助教授
112095	佐藤壘	濱田助教授	112158	濱田育実	若井教授	112217	和田健司	浅里助教授
112096	佐野元紀	佐藤教授	112160	半沢祥	佐藤教授	112533	山森雄介	橋本講師
112097	柴崎記子	千葉助教授	112161	彦坂隆一	松井助教授	112601	大島和浩	S.パリーク講師
112099	下田さや香	有賀助教授	112163	平山晃彦	有賀助教授	112602	小林大介	S.パリーク講師
112100	杉本佳代	若井教授	112164	晝場晋之	倉田教授	112603	桜間俊	S.パリーク講師
112101	助川竜一	八町講師	112165	深津達也	浅里助教授	112604	高野倫幸	倉田教授
112102	鈴木和広	濱田助教授	112166	福田紘之	岩崎教授	112605	中川善博	黒田教授
112103	鈴木茂人	濱田助教授	112167	福田真弓	浅里助教授	112606	中山里歌	若井教授
112104	鈴木雄亮	橋本講師	112168	藤井達也	有賀助教授	112608	横尾明	S.パリーク講師
112105	須田初美	渡澤講師	112169	藤本純子	出村教授	112609	吉野麻美	若井教授
112106	須藤達也	狩野教授	112170	藤原俊和	濱田助教授	102064	葛西憩人	渡澤講師
112107	染谷聡	松井助教授	112171	古川恵吏子	若井教授	102145	玉水大介	濱田助教授
112108	高岡良至	倉田教授	112172	保住和彦	八町講師	102179	前川洋	若井教授
112110	高瀬裕介	千葉助教授	112173	巻光徳	佐藤教授	102602	水野一博	S.パリーク講師
112111	高田剛彦	出村教授	112175	松浦義徳	松井助教授	092095	清水高尚	岩崎教授
112114	高橋智成	佐藤教授	112176	松田晃一	黒田教授	092123	千葉俊和	渡澤講師
112115	高谷佳果	千葉助教授	112177	松永真由美	狩野教授	092147	原田信人	渡澤講師
112117	瀧日統英	土方助教授	112178	松永元子	清水講師	082116	甚野光伸	岩崎教授

## 研究発表

- 日本建築学会東北支部研究報告会 日時：平成14年6月15～16日 岩手県立大学
- ・ビニロン繊維補強ポリマーセメントモルタルの曲げ性状に及ぼす調合要因の影響
    - 大濱嘉彦（日大工学部）・白井 篤・熊谷慎祐
  - ・亜硝酸型ハイドロカルマイト及びアミノアルコール誘導体を混入したセメントモルタルの基礎的性質
    - 高橋 忍（日大大学院）・大濱嘉彦
  - ・補修用ポリマーセメントモルタルの中酸化に対する抵抗性
    - 鈴木 悟（日大大学院）・出村克直・大濱嘉彦
  - ・粉末消泡剤及び粉末収縮低減剤を添加した再乳化形粉末樹脂混入ポリマーセメントモルタルの性質に与える粉末消泡剤の種類の影響
    - 松本真吾（日大大学院）・大濱嘉彦
  - ・SBRラテックスと亜硝酸型ハイドロカルマイトを併用したポリマーセメントモルタルの性質
    - 宮本勇一（日大大学院）・大濱嘉彦・勝畑敏幸
  - ・せっこう硬化体の耐水性改善機構
    - 熊谷慎祐（日大大学院）・大濱嘉彦・出村克直・佐藤文人
  - ・耐水性せっこう系人工木材の開発
    - 宇秋哲也（日大大学院）・大濱嘉彦・熊谷慎祐
  - ・壁土の基礎的性質による産出地域別分類 —その19 近畿産、南東北産及び北関東産壁土の色彩特性—
    - 橘 浩二（日大大学院）・岩崎 博
  - ・土壁のタバコ煙吸着放散特性
    - その23 土壁等内装材料とスギ及びガーネット混合土壁の室内におい強度の比較—
    - 濱村幸司（日大大学院）・岩崎 博
  - ・ホットプレスを用いた廃発泡ポリスチレン —廃木材複合体の成形技術開発—
    - 崔 洛運（日大大学院）・大濱嘉彦
  - ・ホットプレス成形法による廃発泡ポリスチレン
    - 廃木材複合体の曲げ強さに及ぼす充填材の種類及び配合要因の影響—
    - 森 一平（日大大学院）・大濱嘉彦・崔 洛運
  - ・廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの強さ性状に及ぼす結合材量及び架橋材添加率の影響
    - 諸岡淳史（日大大学院）・大濱嘉彦・崔 洛運
  - ・プレキャスト部材水平接合部の応力伝達に関する研究（その3：有限要素法による解析）
    - 五十嵐賢次（日大大学院）・倉田光春・浅里和茂
  - ・建物の弾塑性近似振動解析における動的縮小法の検討 その2 変位応答解析および応力応答解析
    - 日比野巧（日大大学院）・倉田光春・黒田浩司・千葉正裕・浅里和茂・大岡美紗恵
  - ・建物の弾塑性近似振動解析における動的縮小法の検討 その1 固有値解析
    - 大岡美紗恵（日大大学院）・倉田光春・黒田浩司・千葉正裕・浅里和茂・日比野巧
  - ・既存住宅団地の更新整備のあり方に関する調査研究 —世帯構成の変化が及ぼす影響について—
    - 内田 崇（日大大学院）・松井壽則
  - ・福祉のまちづくり条例における助成金、補助金、融資に関する研究
    - 助成金制度、補助金制度、融資制度の実態
      - 中澤 勤（日大大学院）・佐藤 平
  - ・ひとにやさしいまちづくりに関する既存施設の実態調査
    - 福島県K町と福島県K市における既存施設の実態調査
      - 半沢一寛（日大大学院）・佐藤 平
  - ・老人保健施設の空間構成に関する研究 機能訓練室および機能訓練における実態把握と問題点について
    - 澤田博人（日大大学院）・佐藤 平
  - ・老人保健施設の空間構成に関する研究 入浴における脱衣場空間の利用実態
    - 古田部晃弘（日大大学院）・佐藤 平
  - ・障害者のためのスポーツ施設に関する研究（その3）
    - 1979年度と2001年度の社会体育施設におけるバリアフリー計画の比較
      - 及川 剛（日大大学院）・佐藤 平・高桑健一
  - ・スキー場における障害者の利用特性に関する研究（その4） スキー場における補装具の保管場所について
    - 岩根 敦（日大大学院）・佐藤 平
  - ・学習形態の変容からみた教育環境の改善に関する研究 その2 小学校における教室用机面の使用実態
    - 市岡綾子（日大工学部）・若井正一

## 学 術 論 文

- 大濱嘉彦, 出村克宣, 朱 明基, 「オートクレーブ養生ポリマーセメントモルタル及びコンクリートにおけるポリマーの耐久性」, セメント・コンクリート論文集, No. 55, pp. 397-402
- 大濱嘉彦, 出村克宣, 五十嵐 太, 「高性能減水剤を添加したSBR混入ポリマーセメントモルタルの性質」, 日本大学工学部紀要, Vol. 43, No. 2, pp. 9-11, Mar. 2002
- 小川晴果, 大濱嘉彦, 出村克宣, 「一成分形潜在硬化性エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの性質」, 日本建築学会構造系論文集, No.553, pp.13-18, Mar. 2002
- Y. Ohama and M. Joo, "Strength Development and Polymer Durability in Autoclaved Polymer-Modified Mortars", Proceedings of the 9th International Conference on Durability of Building Materials and Components, Vol. 2, CSIRO, Highett, Victoria, Australia, Mar. 2002, pp. paper 112(1)-112(10)
- 五十嵐 太, 大濱嘉彦, 出村克宣, 「高性能減水剤を添加したポリマーセメントモルタルの性質」, 日本コンクリート工学大会年次論文集, Vol. 24, No. 1, pp. 147-152, June 2002
- 崔 洛運, 大濱嘉彦, 出村克宣, 「廃発泡ポリスチレン-廃木材複合体の強度性状」, 日本コンクリート工学大会年次論文集, Vol. 24, No. 1, pp. 1311-1316, June 2002
- 熊谷慎祐, 大濱嘉彦, 出村克宣, 佐藤文人, 「軽量耐水性せっこう硬化体の基礎性状」, 日本コンクリート工学大会年次論文集, Vol. 24, No. 1, pp. 1359-1364, June 2002
- 勝畑敏幸, 大濱嘉彦, 立松英信, 「亜硝酸型ハイドロカルマイト混入ポリマーセメントモルタルの性質」, 日本コンクリート工学大会年次論文集, Vol. 24, No. 1, pp. 1713-1718, June 2002

■大濱教授は、1月15日、日本コンクリート工学協会東北支部から、「微生物及び光触媒によるコンクリートの劣化・修復に関する調査研究委員会」の顧問を委嘱された。

■土方助教授は、3月6日、二本松市の若宮・松岡まちづくり連絡協議会主催研修会で「若宮・松岡地区（二本松市）におけるまちづくり」と題して講演した。

■3月16日、昭和62年度建築計画第一研究室（佐藤教授、長澤元教授）の合同パーティーが開かれ、長野・山梨・福岡等から約20名近くの卒業生が参加した。

■熊谷院生は、3月17日、オーストラリアのブリスベンで開催された9th International Conference on Durability of Building Materials and Componentsに出席し、「Strength Development and Polymer Durability in Autoclaved Polymer-Modified Mortars」と題して講演された。

■大濱教授は、3月29日、ベルギーのルーヴァンにあるルーヴァンカソリック大学におけるA. Beeldens氏の博士学位論文審査会に出席された。

■若井教授は、4月1日、日本インテリア学会理事に選出された。

■若井教授は、4月1日、県立郡山萌世高等学校（郡山駅前・ビッグアイ内）の学校評議員を委嘱された。

■大濱教授は、4月3日から4月5日まで東京で開催された、国際材料

構造試験研究機関連合（RILEM）の「TDP（Application of Titanium Dioxide Photocatalysis to Construction Materials）技術委員会」の第1回ミーティングに委員長として出席された。

■若井教授は、4月27日、ビッグパレットふくしまにて開催されたふくしま『家』倶楽部主催の建築家9人展において「理想のいえづくり」について講演された。

■市岡助手は、5月12日、福島県景観審議会の委員を委嘱された。

■土方助教授は、5月15日、(社)日本

された国際材料構造試験研究機関連合（RILEM）のSpring Meetingに出席された。

■土方助教授は、5月22日、郡山市より郡山市開発審査会委員を委嘱され、会長に選出された。

■大濱教授は、5月25日、日本建築学会東北支部から、「功労賞」を授与された。

■大濱教授は、6月1日、日本建築学会から、「日本建築学会賞選考委員会」の委員を委嘱された。

■若井教授は、6月1日、日本建築学会論文集委員会幹事に任命された。

■大濱教授は、6月4日、韓国清州市郊外の舟城大学の「コンクリート補修補強センター」創立記念国際セミナーに出席され、「鉄筋コンクリート構造物の劣化機構と補修対策」と題する基調講演をされた。

■大濱教授は、6月5日、(社)セメント協会から、「セメント・コンクリート論文集編集委員会」の副委員長を委嘱された。

■若井教授は、6月14日にビッグパレットふくしまで開催された郡山地域テクノポリス推進機構主催のテクノズームアップセミナーにおいて「人間環境系からみた住まいづくり」というテーマで講演された。

■人事：橋本助教授は、4月6日付で定年退官された。なお、引き続き非常勤講師として在職される。

## 教室ニュース

造園学会東北支部の副支部長に選出された。

■大濱教授は、5月17日、東京で開催された第56回セメント技術大会において、「加熱養生した硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さ性状」と題して講演された。

■大濱教授は、5月21日、(勸)建材試験センターから、「レジンコンクリートの試験方法のJIS原案作成委員会」の副委員長を委嘱された。

■大濱教授は、5月22日から5月26日まで、フランスのパリ郊外で開催

## 新任の先生

兼担当教授 **根上 彰生**

担当科目:大学院・地域計画特論



本務は理工学部で、お茶の水キャンパスの5号館に研究室があります。都市設計・計画が専門ですが、学部の建築学科で都市計画や都市設計演習を担当する傍ら、大学院理工学研究科では不動産科学専攻に所属して都市開発に関する講義を担当するという二足のわらじを履いています。今回は工学部で「地域計画特論」を担当させていただくことになり、三足目といったところでしょうか。都市計画・都市開発の研究教育には、刺激のある東京都心の環境は大いに役立っていますが、自然の豊かな郡山キャンパスから地域の環境を見つめなおす機会を与えられたことで、新たな視点に研究領域を広げ、講義に反映できるのではないかと私自身期待しています。両キャンパスの、学生の研究交流の機会なども考えてみたいと思います。専門領域の性質上、地方へ行くと地域性について調べることが好きで、街中をうろろろします。見かけたら声をかけてください。

非常勤講師 **阿部 直人**

担当科目:学部・建築設計演習Ⅴ



私はここ郡山で生まれ、安積高校から法政大学建築学科へ進み卒業後、建築家富永譲氏のところで建築を学びました。ヨーロッパを放浪した後、郡山に戻って事務所を開いて10年以上になります。建築に魅せられて設計を生業とし、毎日建築と格闘している経験から、そして若干の人生の先輩として、物の見方、考え方などを皆さんにうまく伝えられたらと思います。そして授業を通じて、「考える」ことによって建築はもっとも面白くなるということと一緒に体験できたらいいだろうなと思っています。

建築は自己表現の手段の一つです。社会に対して感じていることを自分はこう思う、こうでなければならぬのでは、こうしたら面白いのではということ、何も無いところから、そして作ったら最後なかなか変えられないものを通じて表現しなければいけません。よく考えたらずいぶんと厄介なものを使って表現しなければならないわけですが、出来上がった建築の影響力を考えると、とても大切で、同時に大変魅力的な行為だと思います。

非常勤講師 **藤田 延幸**

担当科目:学部・建築設計演習Ⅰ



4月より2年生の製図をお手伝いさせて頂いて居ります。自分の学生時代と重ね合わせ試行錯誤しつつ生徒さんと接し一つ気付いたことは、「大学で『建築』を勉強するんだ」という何らかの動機、意志、キッカケをまだ掴んでいない人が意外と多い気がします。

勿論、これから在学中にそのキッカケに恵まれるかも知れませんが、あるいは卒業して実務に入った途端に目覚めるといこともありますが、早ければ早だけ楽しみが倍加することを知らない。

好きだったら誰でも建築家になれるという職業ではないし、(建築家だけが建築を学ぶ者の全ての職業でもないけれど) 建築のどの分野でも構わないが、一歩踏み込む勇気と努力の後に『知る』の楽しさ、面白さを知って欲しいと思います。苦あれば楽ありで、苦のないところ楽しです。

形、空間を創作する苦労話、失敗した事例、設計の進め方などの話が、生徒さんに一つのキッカケになればと思っています。

非常勤講師 **辺見美津男**

担当科目:学部・建築設計演習Ⅲ



1976年に本大学を卒業し、副手として1年間本学科に勤務致しました。その後、白河市役所の建築都市行政に14年間携わりました。在職時に手掛けた公衆トイレでは福島県建築文化賞を受賞することもできました(建築資料「公衆トイレ」掲載 湖畔乃花和家)。1991年に設計室を開設し、「建築学より人間学」を持論に仕事をしております。

那須甲子高原の自然に魅せられ、ちょっと山奥に住まいを構えております。自然観察が趣味で時間が空けば近くの山や沢に入ります。三、四百年のブナや栃、水楢の古木が魅せる森の時と空間、太古の昔から続く循環の不思議、自然のうつろいは忙しい日々のなかで少し立ち止まって何が本質的に大切なのかを語りかけます。

この度、講師の依頼を受け重責を感じておりますが、「ものを観る」「ものをつくる」ということの何が本質的に大切なのかを一緒に考えていけたらと思っています。

## 新任の先生

注：佐久間宏一先生は次号に掲載

### 非常勤講師 水野谷 梯子

担当科目：学部・造形演習



私は生まれも育ちも青森県です。高校時代までは、津軽弁を話す純朴な箱入り娘（自称）でした。大学時代は、ファッション・トレンドの最先端として知られる文化女子大学で、テキスタイルデザインを専攻し、生活の中にある造形の存在を強く意識するようになりました。その後、デザイン制作会社に所属し様々なメディアで展開するグラフィックデザインの制作に携わり、またデザイン専門学校の講師を経て、1997年に独立しました。同時期に東北芸術工科大学大学院にてデザイン工学を専攻、生産デザインの日原もとこ教授に師事し、使い手の立場に立ったものづくりや環境の色彩計画に関しての研究を進め、現在は、色彩はもとより、形・材質の身体と心を与える影響を考慮した企画・デザインを実践しています。学生の皆さんには、造形の演習を通して、多角的な視点・柔軟性・応用力をぜひ学び取ってほしいと思っています。頑張りましょうね！

### 非常勤講師 陽田 秀夫

担当科目：学部・建築設計演習Ⅲ



本大学の卒業生でもない私が縁あって講師の依頼をいただきました。お引き受けしたものの学生諸君への指導などできるのだろうかと不安な想いで最初の授業に臨んで早や2ヶ月。そんな不安もすぐに解消されました。不思議なもので、学生諸君と過ごす数時間は完全に数十年タイムスリップし、自分も学生として一緒に学んでいる錯覚を覚えるのです。同じ課題を頭の中で「自分ならどう解決するだろう」と考えながら楽しい時間を過ごしています。

そもそも「物づくり」は苦しくそして楽しいもの。生む苦しみが大きければ大きいほど、その後の喜びもまた大きいもの。

私は建築設計事務所を主宰して25年。県内の福祉施設や教育施設のプロジェクトに携わる機会をいただき、この苦しみと喜びを交互に味わう毎日です。学生諸君にはこうした物づくりの楽しさを伝えることができればと願っています。

### 卒業生短報

本学卒業生の松橋寿明氏（平成5年3月卒）は、昨年度、住宅産業研修財団、住宅保証機構、日本環境財団が主催し、国土交通省、環境省、資源エネルギー庁が後援した第2回「大地に還る住宅（サスティナブル・ハウジング）」の設計競技で「雁木（がんぎ）の家」を提案して同コンペ3席の資源エネルギー庁長官賞を受賞した。応募総数は、259点で、審査員は小玉祐一郎（神戸芸工大教授）芦原太郎（建築家）など5名であった。提案された受賞（下写真）は、空気集熱装置に利雪を考慮した木造一部RC造、延べ床面積40坪の中心市街地定住型の住宅。現在、同氏は、長野市在住で、宮本忠長建築設計事務所に勤務。



### 平成14年度 学科主任・各種委員会委員等

学科主任	出村 克宣	教授
学務委員	千葉 正裕	助教授
学生生活委員	Sバリーク	講師
広報委員	三浦 金作	助教授
学術研究委員	渡澤 正典	講師
図書委員	八町 雅康	講師
就職指導委員	狩野 勝重	教授
	松井 寿則	助教授
営繕管財委員	浅里 和茂	助教授
教室教務係	土方 吉雄	助教授
教室管財係	浅里 和茂	助教授
クラス担任	2年	三浦 金作 助教授
		浅里 和茂 助教授
	3年	有賀 保二 助教授
		Sバリーク 講師
	4年	狩野 勝重 教授
		黒田 浩司 教授
	5年	松井 寿則 助教授
大学院専攻幹事	出村 克宣	教授

